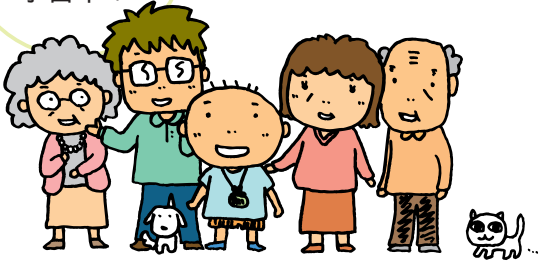


矢口家でも
おかねについて
学習中！



ペアリーロード商店街での 職場体験と日銀見学

～ 東京都稲城市の小学生たちの一日～

日本銀行情報サービス局が事務局を務めるマネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会は、中立・公正な立場から金融経済情報の提供と金融経済学習の支援を行っています。知るぽるとのぼるとは「入口」や「港」という意味です。HPアドレスは、<http://www.shiruporuto.jp/> です。

小学生が店員さんに！

「おきやくさんが、きてドキドキした」「おかねはだいじだとわかった」「また、やってみよう」

東京都郊外にある人口約八万人のベッドタウン、稲城市いなぎの小学生（四～六年生）一二名が、地元商店街で職場体験をした時の感想です。

このイベントは、日本銀行本店に事務局がある東京都金融広報委員会（注）が稲城市の児童館と協力してこの春休みに開催しました。小学生たちは、地元商店街での職場体験の後、バスで移動して東京・日本橋にある日銀本店を見学しました。

（注）全国四七都道府県にそれぞれ「金融広報委員会」が設置されており、東京都金融広報委員会もその一つです。「金融広報中央委員会」はその中央組織にあたります。

都心から南西へ電車で一時間ほどに位置する稲城市の「ペアリーロード商店街」。ここが、今回職場体験の舞台。市内の各小学校から集まった小学生たち

は、それぞれ四～五人一組になって、商店街に出向きました。職場体験受け入れに協力下さったのは、文具屋さん、めがね屋さん、ハンコ屋さん、楽器屋さん、コンビニエンスストアの方々です。

この職場体験は、小学生たちに実際に商品やお金の流れを体感してもらうという狙いで企画しました。普段の買い物では意識しない「レジの向こう側」の世界を体験することで、少しでもお金の動きに興味を持ってもらったり、物やお金の大切さを分かってもらいたいと考えました。

午前中いっぱいかけて小学生たちは、それぞれのお店で、製品ができる過程を見たり、在庫を調べて商品を並べたり、チラシを作ったり配ったり

りました。最初はおっかなびっくりの様子でしたが、「商品がたくさんあって並べるのが大変」「自分たちが作ったチラシを見てお客さんが来てくれた」「お店から戻ってきた小学生たちは、少し興奮気味に自分たちが「働いた」お店の経験を自慢し合っていました」。





「にちぎん」って
どんなところ？」

お昼を食べた後、今度はバスに乗って日銀本店の見学に向かいました。稲城市から日本橋にある日銀本店までの間、バスの中ではクイズ大会をしました。クイズの本身は「金融」やこれから見学する「日銀」に関するもの。「金融広報アドバイザー」と呼ばれる方の司会で、難しい内容でも小学生たちが飽きてしまわないように、工夫してもらいました。「私たちも日銀に貯金できる?」「お札が半分焼け

たらいくらになる」など、簡単そうで難しい問題に、小学生たちは周りと相談しながら、頭をひねっていました。

日銀本店に到着。明治時代に建てられた建物の偉容に、元氣盛りの小学生たちもびつくりして、中へ入る時は神妙な面持ちでした。

見学は日銀職員が案内してくれました。意外にきずく話しながら小学生たちも次第に緊張が解け、次々に質問をぶつけます。「いつからお金は使われているの?」「お札の肖像はどうやって決めているの?」。普段、見学案内になれた職員も小学生たちのパワーにやや押され気味。見学の目玉は、昨年夏から公開されている地下の大金庫です。厚さ九〇センチ、重さ二五トンの扉など、生まれて初めて見るそのスケールの大きさに小学生たちは目を丸くしていました。長い一日が終わりましたが、小学生たちは疲れをみせません。みんな元気に日銀を後にし、稲城へ帰っていききました。

今回のイベントで、普段の学校生活ではできない貴重な経験

をしてもらえたのではないでしょう。また、「おかねの流れ」や物の大切さを知るきっかけになったと思います。この小学生たちが、いずれ大人になり、経済や金融との関わりができた時、かつての職場体験や日銀見学を思い出してもらえれば幸いです。

どうして稲城なの?

今回のイベントがなぜ稲城市の小学生を対象として行われたのでしょうか? 実は稲城市は、金融広報中央委員会が指定する「金融学習特別推進地区」になっています。略して呼ぶと「金融学習特区」となりますが、いわゆる政府が推進している規制改革の特区とは全く別のもです。

「特区」の最大の目的は、地域の方々が自ら「金融の重要性を認識し、幅広く学ぶ」ことにあります。稲城市は従来から地域ぐるみで金融学習に取り組んでいる実績があり、十六年七月に「特区」に指定されました。私たちは稲城市と協力して、職場

体験だけでなく金融に関する様々な講座を無料で多数開催しています。普段はなかなかとつきにくい「金融」について、子供から大人まで楽しく学べるような場を提供しています。今回の小学生向けイベントはこの一環として行われたものです。講座でとりあげるテーマはペイオフ、年金、保険、金融トラブルなど多岐にわたっています。講師は、主に金融広報中央委員会が委嘱する「金融広報アドバイザー」が務めます。

私たちは、今後とも地域で開催する講演やイベントに一層の工夫を凝らしていきます。職場体験や金融学習の拠点づくりなどにも取り組んでいく予定です。このような活動は地域の方々の熱意と協力さえあれば、どこでも市区町村単位に展開することができます。ご興味のある方は、金融広報中央委員会事務局（連絡先〇三―三二七―二七九五）まで、お尋ね下さい。最後に、今回、職場体験にご協力頂いたペアリーロード商店街、稲城市役所、児童館の方々

に厚くお礼申し上げます。